



【連載：医療安全管理者ネットワークだより】

## 第6回 第21回医療安全管理者ネットワーク会議 in 医療の質・安全 学会学術集会のご報告

～現場で行うべき医療安全行動の業務手順の作成～（2017.1.24）

医療の質・安全学会 ネットワーク委員

寺井美峰子(名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部)

第21回医療安全管理者ネットワーク会議が、第11回医療の質・安全学会学術集会の2日目(2016年11月20日)の教育セミナーとして、約160名を迎えて開催されました。

### 医療安全管理者ネットワーク会議の目的と活動

セミナーの冒頭で、医療の質・安全学会ネットワーク委員会の嶋森好子委員長から、ネットワーク会議について紹介されました。ネットワーク会議は、医療安全管理に携わる多職種の方々が集まり、医療安全の成功事例や知恵・工夫を持ち寄り、現場の問題解決や実行可能な対策の検討のための情報交換を行うことを目的としていて、今年で活動10年目となります。2年前から“現場で行うべき医療安全行動の業務手順”として、医療安全確保のために「やるべきこと、すなわち手順をきっちり実践する」ことができるよう、いずれの医療機関でも行うことが推奨される業務手順書の作成に取り組んでいます。今回のセミナーでは、「手術安全チェックリストの運用手順」、「輸血の患者誤認予防のための手順」、「病理検体の患者誤認予防のための手順」の作成に関する報告や説明、課題の検討などが行われました。

### 医療安全管理者が WHO 手術安全チェックリスト使用の推進者になってほしい

手術における患者確認・部位・術式の確認には WHO 手術安全チェックリストを用いることが推奨されており、ネットワーク会議では、チェックリスト運用手順の作成を進めてきました。今回のネットワーク会議では、日本手術看護学会のミルズしげ子副理事長を迎えて特別発言をいただきました。

日本手術看護学会では、患者に安全な手術看護を提供するために、安全対策委員会を設置して WHO 手術安全チェックリストの推奨活動を行っているということです。推奨理由について、多職種でのチーム医療が必要とされる手術室において、チェックリストはコミュニケーションツールであり、チームメンバー間のコミュニケーションエラーを最小限にするツールであることが、根拠となる文献やデータとともに説明されました。

しかしながら、学会員への調査では、WHO 手術安全チェックリストを活用している施設は 875 施設のうち 52%にとどまること、活用されない理由の 21%は医師の協力が得られないこと、という実態が紹介されました。そして、医療安全管理者に WHO 手術安全チェックリスト使用の推進者になってほしい、手術室に足を運んで、手術室看護師をサポートしてほしいとの熱い呼びかけがありました。

## WHO 手術安全チェックリストを用いた患者確認・部位・術式の確認手順

続いてネットワーク委員会の亀森康子委員から、手術部位マーキングを含めた「手術における患者確認・部位・術式の確認手順(案)」が配布され、内容の説明がありました。そして、これを活用して、各病院内で WHO 手術安全チェックリストを用いた患者確認・部位・術式の確認手順を確立することが呼びかけられました。今後、ネットワーク委員会と日本手術看護学会との協働で手順書を完成していく方針です。

## 患者確認に関する 2 つのテーマの方針・手順

2016 年 5 月に完成した患者確認に関する方針・手順について、筆者から説明し、各病院での導入や、各病院の手順との比較検討を呼びかけました。また、ネットワーク会議で現在取り組んでいる 2 つのテーマである輸血投与時の患者誤認予防手順作成、そして病理生検検体の取り違え予防手順作成について、進捗状況を報告しました。

この 2 つのテーマについては、次回のネットワーク会議でさらに手順作成を進めます。嶋森委員長から、多くの医療安全管理に携わる方々の協力をお願いしたいと呼びかけられ、会議は終了しました。

次なる第 22 回医療安全管理者ネットワーク会議は 2017 年 2 月 25 日(土)に東京都看護協会で開催します。医療の質・安全学会ホームページ(<http://qsh.jp/>)から参加登録をお願いします。次回の「医療安全管理者ネットワークだより」で、この 2 つの手順作成の進捗状況を詳しくお伝えします。